

第五節 牧畜業

一家畜

南北路に於ける牧畜の比較

種類

牧者と家畜

新疆は地域廣大、草原多くして、動物の生育に適す。住民の四分の一は、牧畜を專業とする、所謂游牧民にて、其他土着の人民も、亦概ね牧畜を副業とせり。然れども南北兩路何れか最も牧畜盛なりやと云はゞ、南路は北路に若かざること殊に甚しく、北路は蒙古族、哈薩克等一體に游牧するに反し、南路は著勒都斯河谷に住む吐爾扈特族と烏什及喀什噶爾の山地に住する、布魯特族の游牧する者有るに過ぎず。家畜は、馬、驢、騾、牛、羊、駱駝、鶏、豕にして、其内最も生産多きを羊とす。是れ土人大部の常食品たるに因るなり。次は牛、馬、次は駝、驢とす。唯、豕は漢滿人のみの食用に係り、他は需用なきに因り飼養する者最も少し。一人にて牧養し得る家畜の數は、羊は五百頭、馬、牛、駝、は五十頭を以て最大限とす。平坦廣濶の草原に數萬の家畜を放牧し、牧者何れも馬或は牛に跨り、二三頭の犬を助手として、馳驅指導する様、宛然操練を見るの觀あり。牧者は、早朝家畜の先頭に